

2021年度（2022年3月期） 第2四半期決算概要 説明資料

DNP

2021年11月17日
大日本印刷株式会社

1. 2021年度第2四半期 連結決算の概況：業績概要

(単位：億円)

	2020年度 第2四半期	2021年度 第2四半期	前年同期比	2021年度 業績予想	進捗率
売上高	6,446	6,571	+1.9%	13,500	48.7%
営業利益	175	308	+75.5%	570	54.1%
経常利益	217	364	+67.1%	650	56.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	114	338	+195.7%	530	63.8%

- 新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛や行動制限の延長の影響を受けるも、増収増益を達成。営業利益はコロナ前の前々年実績（256億円）も上回った。
- 2021年度第2四半期の売上高には新収益認識基準適用の影響額（▲145億円）を含んでおり、当影響額を除いた売上高は前年比+4.2%となった。
- コロナ禍による働き方や生活様式の変化、地球環境に対する意識の高まりなど、事業環境が変化するなか、「IoT・次世代通信」「データ流通」「環境」「モビリティ」関連の事業に力を入れ、経営資源の最適配分や競争力強化のための構造改革に取り組み、強い事業ポートフォリオの構築に努めた。

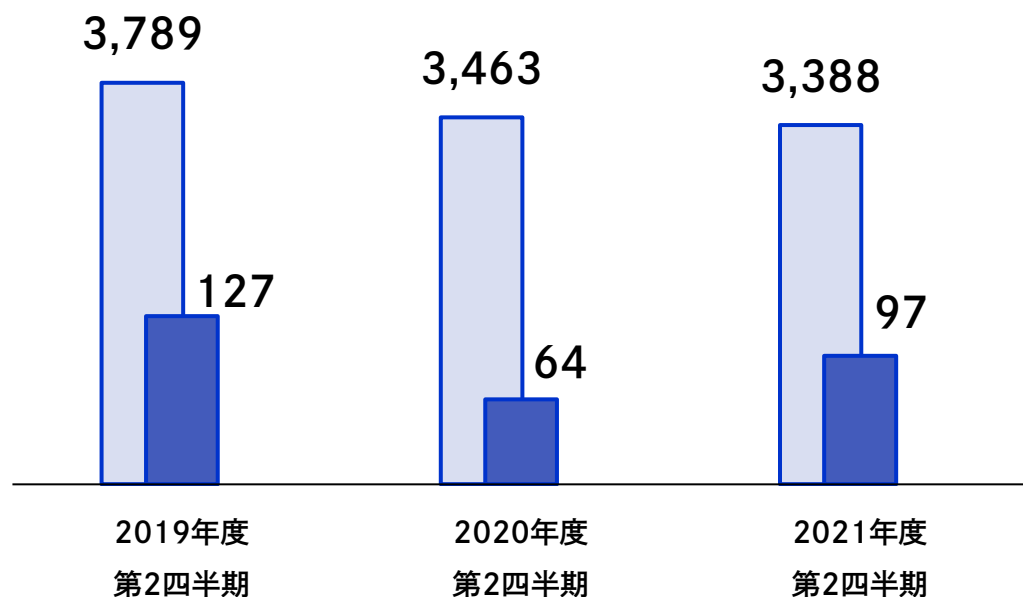
2021年度 第2四半期 連結決算の概況：セグメント別

情報コミュニケーション部門

【業績推移】

(単位：億円)

□売上高 (左) ■営業利益 (右)



【概況】

大型BPOの反動減などにより減収となるも、イメージングコミュニケーション事業や出版事業の回復により、増益

〈情報イノベーション事業〉

- ・カタログや販促DMが回復傾向
- ・BPO・ICカードは大型案件が一段落し、減少

〈イメージングコミュニケーション事業〉

- ・主力の米国市場でワクチン接種が進み、写真用部材やサービスの需要が回復

〈出版関連事業〉

- ・ハイブリッド型書店「honto」の売上が増加
- ・電子図書館サービスや図書館運営業務が順調に推移

2021年度 第2四半期 連結決算の概況：セグメント別

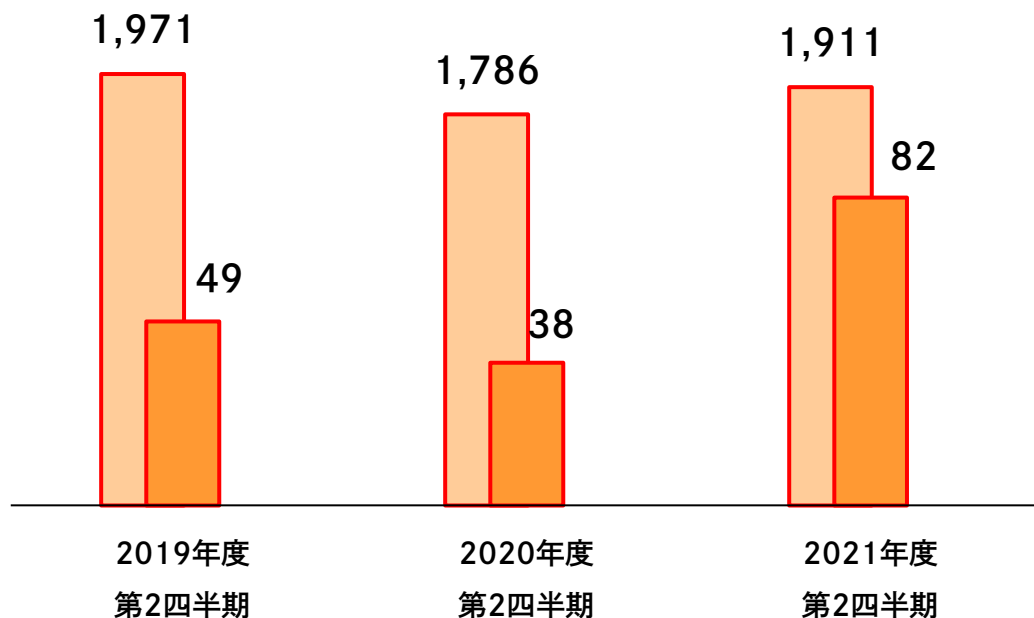


生活・産業部門

【業績推移】

(単位：億円)

■ 売上高 (左) ■ 営業利益 (右)



【概況】

自動車、住宅用の内外装材の回復、リチウムイオン電池用バッテリーパウチの需要拡大により、増収増益

〈包装関連事業〉

- ・コロナ禍での外出自粛や行動制限の延長により業務用包材が減少も、無菌充填システム販売が増加

〈生活空間関連事業〉

- ・国内外の自動車市場や国内の住宅市場が回復傾向にあり、自動車内装用の加飾フィルムや住宅用内外装材が増加
- ・抗菌・抗ウイルス機能を付与した製品を拡充

〈産業用高機能材関連事業〉

- ・リチウムイオン電池用バッテリーパウチが大幅に増加

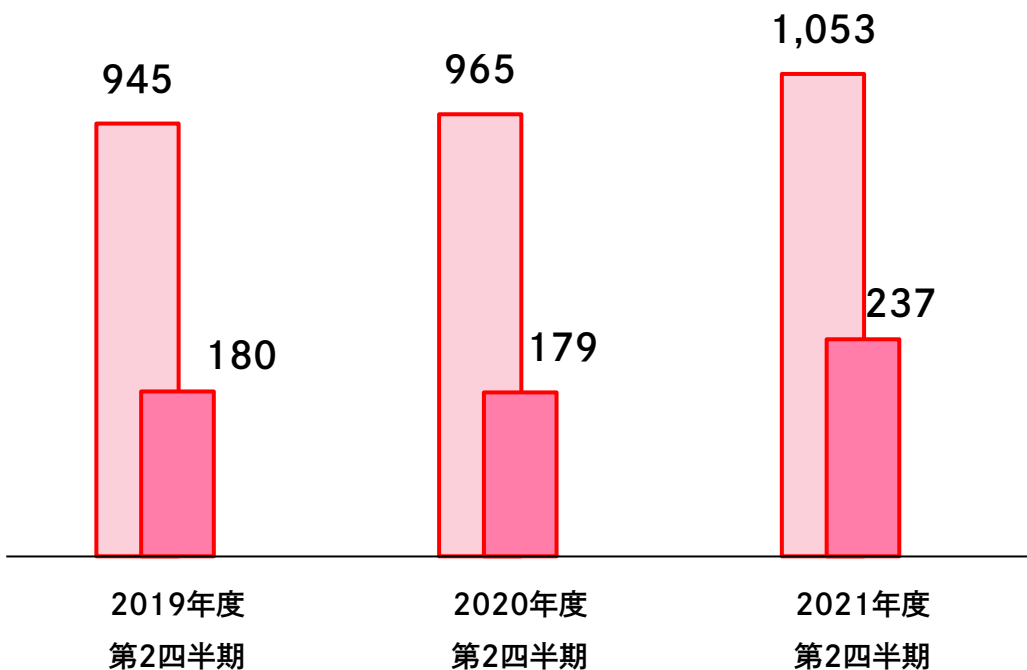
2021年度 第2四半期 連結決算の概況：セグメント別

エレクトロニクス部門

【業績推移】

(単位：億円)

□ 売上高 (左) □ 営業利益 (右)



【概況】

巣ごもり消費の拡大や半導体市況の活況から、増収増益

〈ディスプレイ関連製品事業〉

- ・光学フィルム関連は、巣ごもり消費の拡大やテレワーク、オンライン授業の普及により堅調に推移
- ・スマートフォン向け有機ELディスプレイの需要増によって、有機EL製造用メタルマスクも堅調に推移

〈電子デバイス事業〉

- ・半導体市場の活況を受け、通信や車載、データセンター向けの半導体用フォトマスクなどの需要が増加

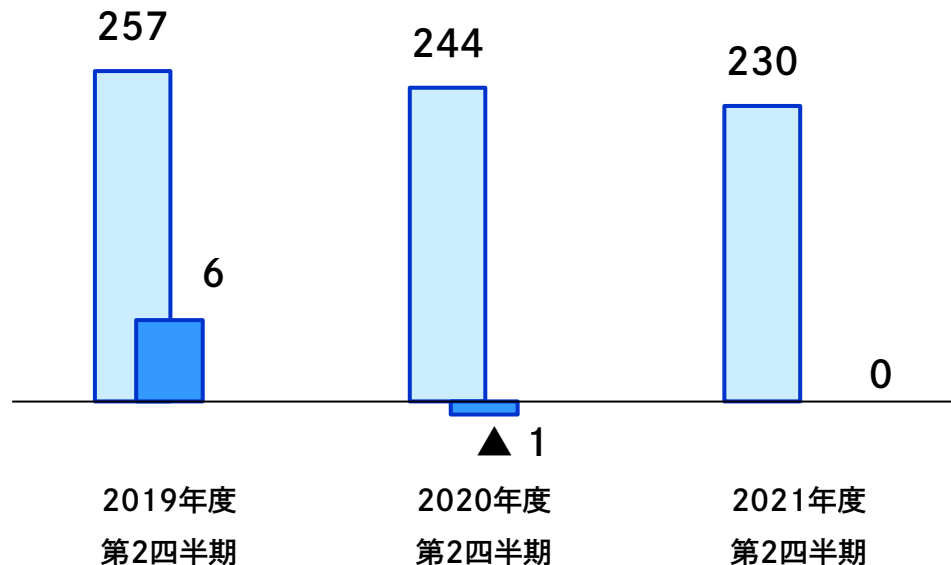
2021年度 第2四半期 連結決算の概況：セグメント別

飲料部門

【業績推移】

(単位：億円)

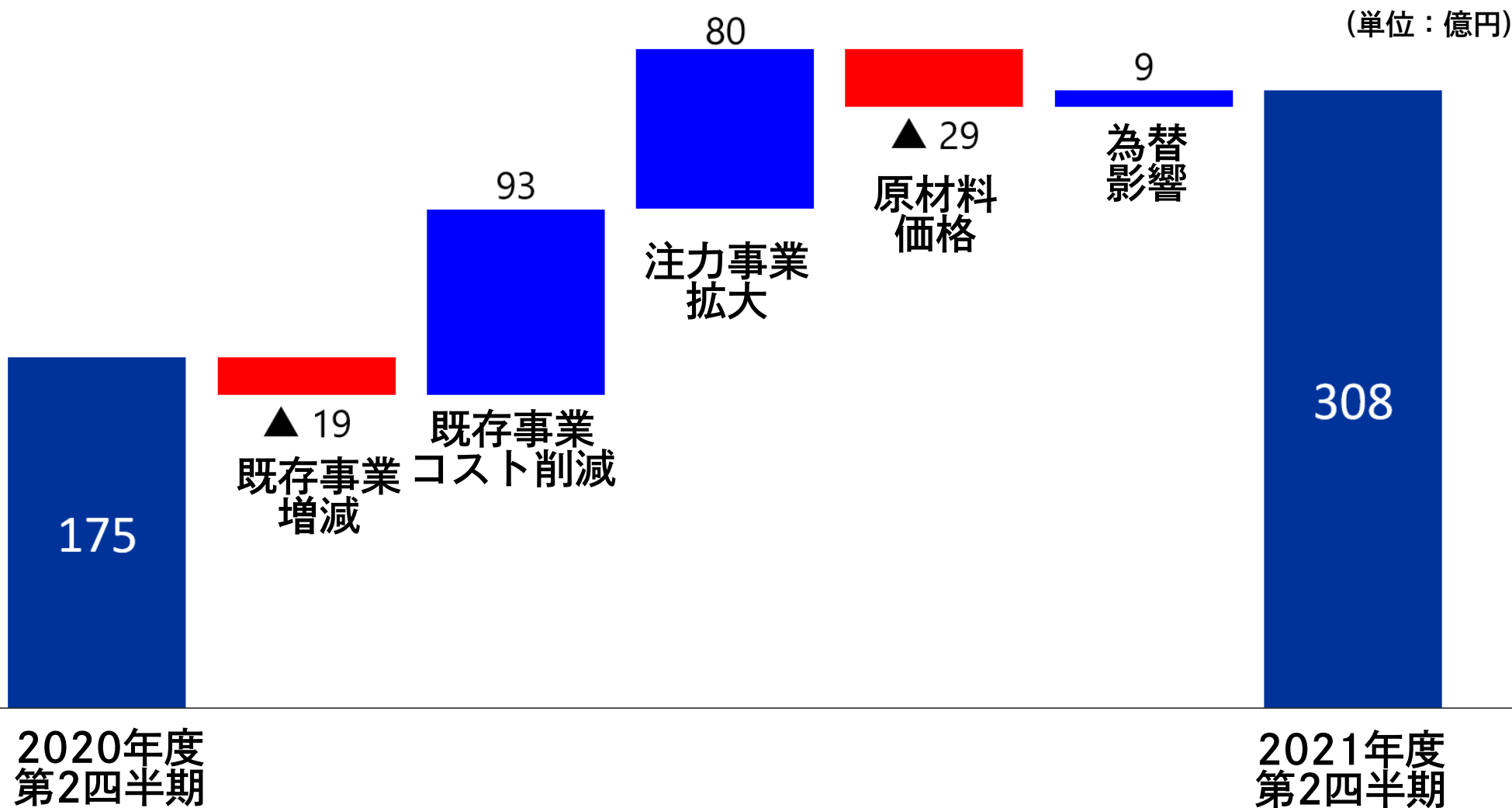
□ 売上高 (左) ■ 営業利益 (右)



【概況】

- ・外出自粛や行動制限の延長の影響により、観光地や飲食店等での需要が減少
- ・生活様式の変化や環境負荷の低減を目指して、商品名等のラベルを付けないペットボトル飲料の販売に注力
- ・アルコール飲料では「檸檬堂」のラインナップ増加や新アルコール飲料「ノメルズ・ハードレモネード」の販売を開始

2021年度 第2四半期決算 連結決算の概況： 営業利益 増減



10月に入り、日本国内においては新型コロナウイルス感染者数が減少し経済活動が回復しているが、業績予想においては原材料価格の上昇や半導体不足等の影響もあり、大きな回復は織り込んでいない。

一方で、エレクトロニクス製品においては、グローバルで巣ごもり需要の反動減が予想され、状況を確認している。

◆原材料影響

上期：29億円 ⇒ 下期：約55億円の見込

ナフサ、アルミの価格が高騰している。顧客への価格交渉により影響を最小限にとどめる。

◆半導体不足影響

自動車業界において、グローバルで生産調整が起きており、今後の需要動向に懸念がある。

2021年度業績予想について

(単位：億円)

DNP

	2020年度	2021年度	前期比(差)
売上高	13,354	13,500	+1.1%
営業利益	495	570	+15.1%
営業利益率	3.7%	4.2%	+0.5%
経常利益	599	650	+8.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	250	530	+111.3%
ROE	2.6%	5.0%	+2.4%

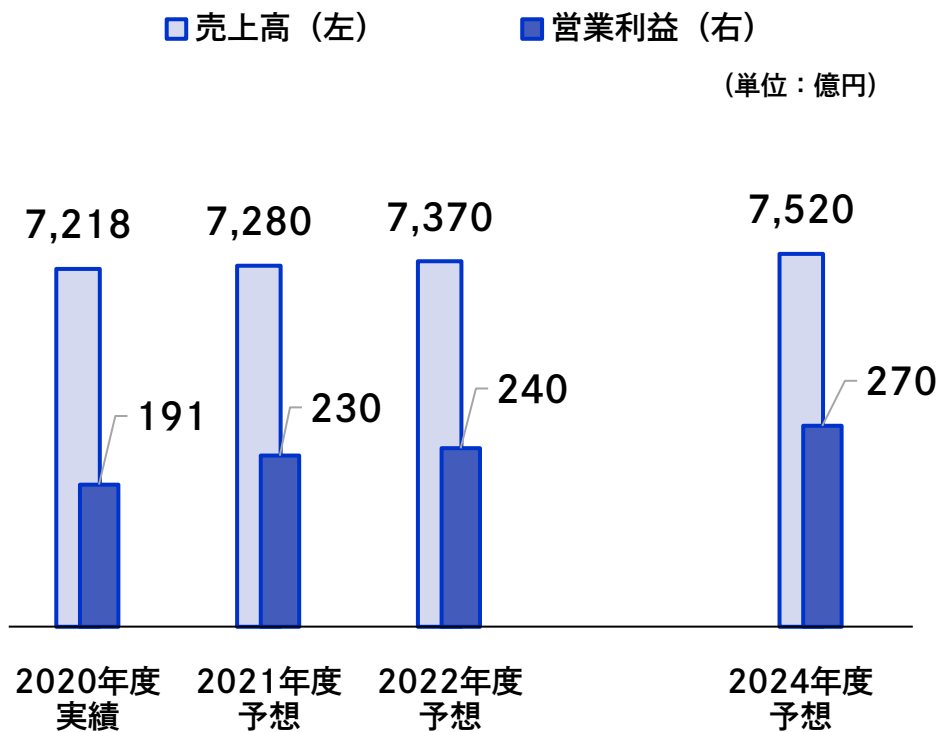
設備投資額	716	650	▲9.3%
研究開発費	326	330	+1.2%

		2020年度	2021年度	前期比
情報コミュ ニケーション	売上高	7,218	7,280	+0.9%
	営業利益	191	230	+19.9%
生活・産業	売上高	3,680	3,800	+3.3%
	営業利益	139	170	+21.7%
エレクトロ ニクス	売上高	1,970	1,940	▲1.5%
	営業利益	366	370	+0.8%
飲料	売上高	514	515	+0.1%
	営業利益	8	8	+1.2%
調整額	売上高	▲28	▲35	
	営業利益	▲211	▲208	

- ・現時点で通期業績予想の変更はない。
- ・不動産等の資産の売却や退職給付制度の変更による特別利益の計上を見込んでいる。
ROEは5.0%を見込む。

※新収益認識基準適用による売上影響額：約▲300億円

【中期経営計画】情報コミュニケーション部門



サブセグメント	主な注力事業
情報イノベーション	BPO
イメージングコミュニケーション	認証・セキュリティ
出版関連	情報銀行
	写真メディア・コトづくり
	教育関連事業

注力事業の進捗状況： セグメント別

情報コミュニケーション部門

注力事業

コトづくり関連事業

DXの推進と新しい生活様式への対応で撮影需要を拡大

社会的課題/トレンド

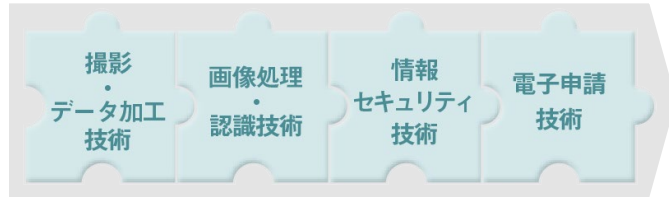
デジタル庁の
創設

マイナンバーカード
の普及率向上

情報セキュリティ

感染症対策

DNP独自の「P&I」の強みを生かしたソリューション



グローバルで
安全・安心な画像
利用ソリューション
を生活者へ提供

- 国内No.1の証明写真機「Ki-Re-i」によるマイナンバーカード電子申請
- 窓口撮影向け「マイナアシスト®」のバージョンアップ
- M&Aでシェアアップ、ネットワーク対応強化
- 電子決済サービスや抗菌、抗ウイルスコーティング



社会へのインパクト

<行政サービスのDX化推進>

- 自治体申請業務のDX化
- 生活者の撮影・申請のDX化

<情報セキュリティ>

- 安全・安心な申請

<withコロナ社会の新しい生活様式>

- 申請時の接触機会を削減

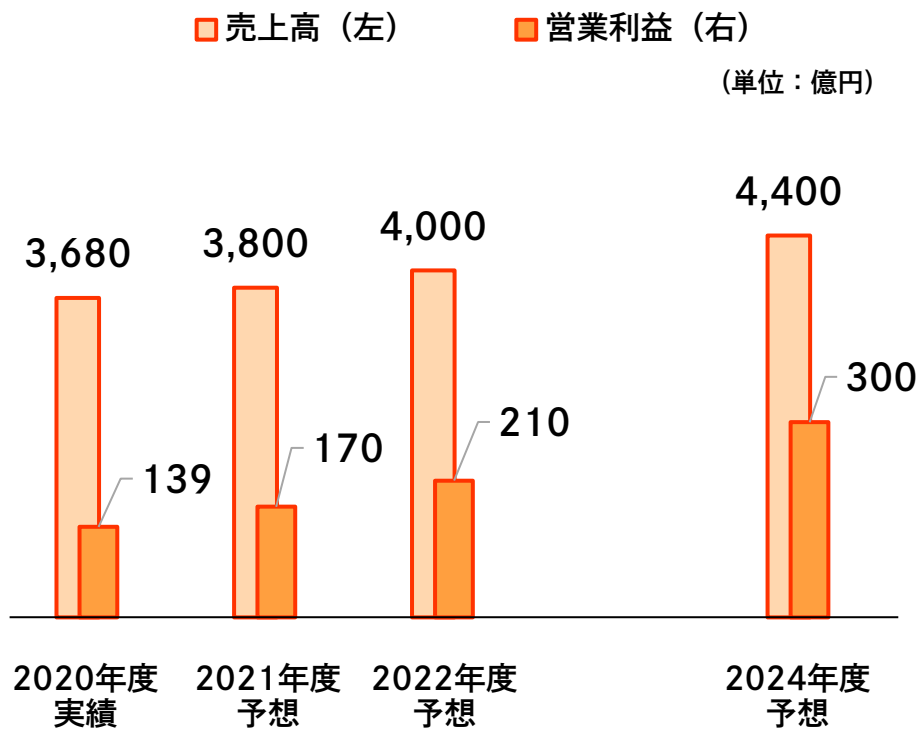
今後の取り組み

- 電子申請サービスの用途拡充
- 顔画像データ提供サービスの展開
- 本人確認機能の追加

証明写真関連サービス
2024年度売上
目標100億円



【中期経営計画】生活・産業部門



サブセグメント	主な注力事業
包装関連	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid yellow; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">環境配慮包材</div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">メディカル・ヘルスケア</div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">モビリティ内外装材</div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">産業用高機能材</div> <div style="border: 1px solid yellow; padding: 5px;">リチウムイオン電池用バッテリーパウチ</div> </div>
生活空間関連	
産業用高機能材関連	

セグメント別 注力事業の進捗状況

生活・産業部門

注力事業

リチウムイオン電池用
バッテリーパウチ

カーボンニュートラル、次世代通信の主役として需要が拡大

社会的課題/トレンド

DNP独自の「P&I」の強みを生かしたソリューション

環境・社会へのインパクト

リチウムイオン電池
の軽量化・薄型化

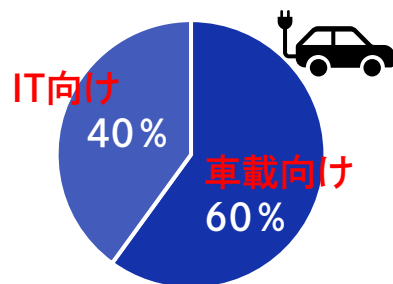
強みのコンバーティング技術を活かして
業界デファクトスタンダードを構築し、
用途を拡大して世界トップシェアを維持・強化

より軽く、
より長く、
より安全に
電池を包む

軽量化・形状の
自由度などが改善され、
走行距離や空間
スペースの課題が解決

脱炭素社会の構築
自動車の電動化

用途別割合



DNPの強み

- 世界標準
- 大型電池用途でも安定した品質実績
- 「IATF 16949」の認証を取得



次世代通信の普及

脱炭素社会
気候変動の緩和と適応



セグメント別 注力事業の進捗状況

生活・産業部門

注力事業

リチウムイオン電池用
バッテリーパウチ

短期～中長期のトレンド

自動車の電動化にともない中長期での成長を見込む



売上目標

	短期	中長期
市場動向	<ul style="list-style-type: none">● 半導体不足等による自動車減産の影響は一時的● アルミや樹脂などの原材料価格高騰の影響を受ける	<ul style="list-style-type: none">● EV需要の拡大により好調な推移が継続的に見込まれる
生産体制	<ul style="list-style-type: none">● 工場増設の状況 →2022年に鶴瀬工場内で製造ラインを増設予定 その後も、国内外での投資を検討中	

リチウムイオン電池用
バッテリーパウチ全体で
2024年度に1,000億円

セグメント別 注力事業の進捗状況

生活・産業部門

注力事業

環境配慮包材
(モノマテリアル包材)

機能性とリサイクル適性に優れ、国内外で需要の拡大を見込む

社会的課題/トレンド

DNP独自の「P&I」の強みを生かしたソリューション

社会へのインパクト

循環型経済への移行

海洋プラスチック
ごみ汚染問題

温室効果ガス排出量
の削減



高いバリア性
リサイクル適性
海外拠点と連携

- DNP独自のコンバーティング技術を活かした**高いバリア性**
- モノマテリアルで、**リサイクル適性を高めたパッケージ**
- DNPインドネシアと連携し**最新の技術開発の成果を共有**



ユニリーバ・ジャパンの「リプトン キープ&チャージ」等に採用

日本包装技術協会「第45回木下賞」受賞



左：コルゲート社で採用された商品
右：液体にも対応したモノマテリアル包材

「資源の循環」「CO₂の削減」
「自然環境の保全」の
3つの価値を提供
循環型社会の実現に欠かせない
「水平リサイクル」に貢献

海外でモノマテリアル
包材の供給を強化



今後の取り組み

- モノマテリアル包材の
ラインアップ拡充
- エコシステムの構築
(リサイクルバリューチェーン)

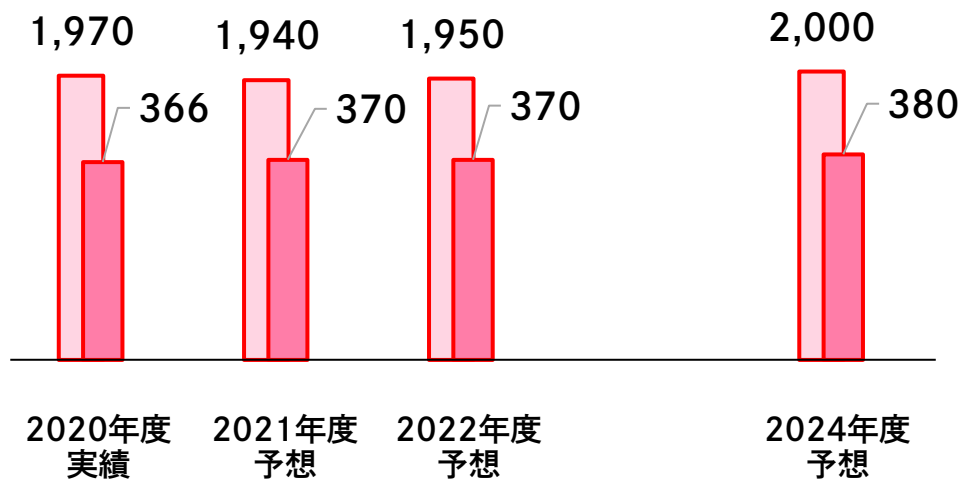
[GREEN PACKAGING]
全体で2025年度に
年間500億円の売上



【中期経営計画】エレクトロニクス部門

■売上高（左） ■営業利益（右）

(単位：億円)



サブセグメント	主な注力事業
ディスプレイ 関連製品	光学フィルム
電子デバイス	メタルマスク
	5G関連新製品

セグメント別 注力事業の進捗状況

エレクトロニクス部門

注力事業

5G関連新製品
(ナノインプリントリソグラフィ:NIL)

次世代半導体向け製品の供給を通じて脱炭素社会の実現に貢献

社会的課題/トレンド

DNP独自の「P&I」の強みを生かしたソリューション

社会へのインパクト

半導体プロセスの
微細化

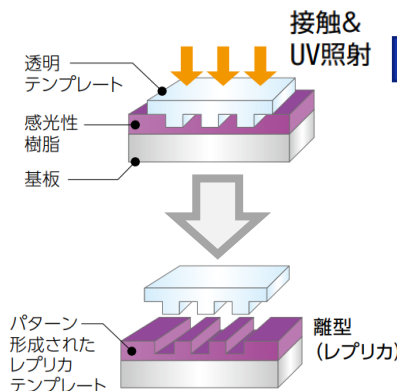
半導体製造コスト
の増大

デジタル機器や
情報通信の
省エネ・グリーン化



開発、原版作製、
複製版作製、
量産まで対応

- DNPは**世界唯一**の半導体用NIL
テンプレート（原版）メーカー
- **15nmレベル**のテンプレートのほか、
複数の工程を一括処理できる
3次元テンプレートも開発、得意先の
ニーズを先取りした最先端の製品を提供
- **NAND型フラッシュメモリー**や**ロジックIC**
の製造コストや消費電力を大幅に抑制



半導体製造の省電力や
コスト低減を実現

DXの発展に貢献

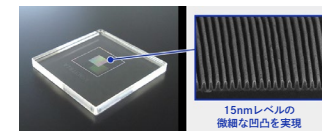
脱炭素社会
気候変動の緩和と適応



今後の取り組み

- 製造技術や運用方法を
改良し、実用化に向けた
課題（回路欠陥等）の
さらなる改善に取り組む
- より微細な「次世代
対応テンプレート※」
の開発に着手
※3ナノノード（線幅12nm）や
2ナノノード（線幅10nm）の
テンプレート

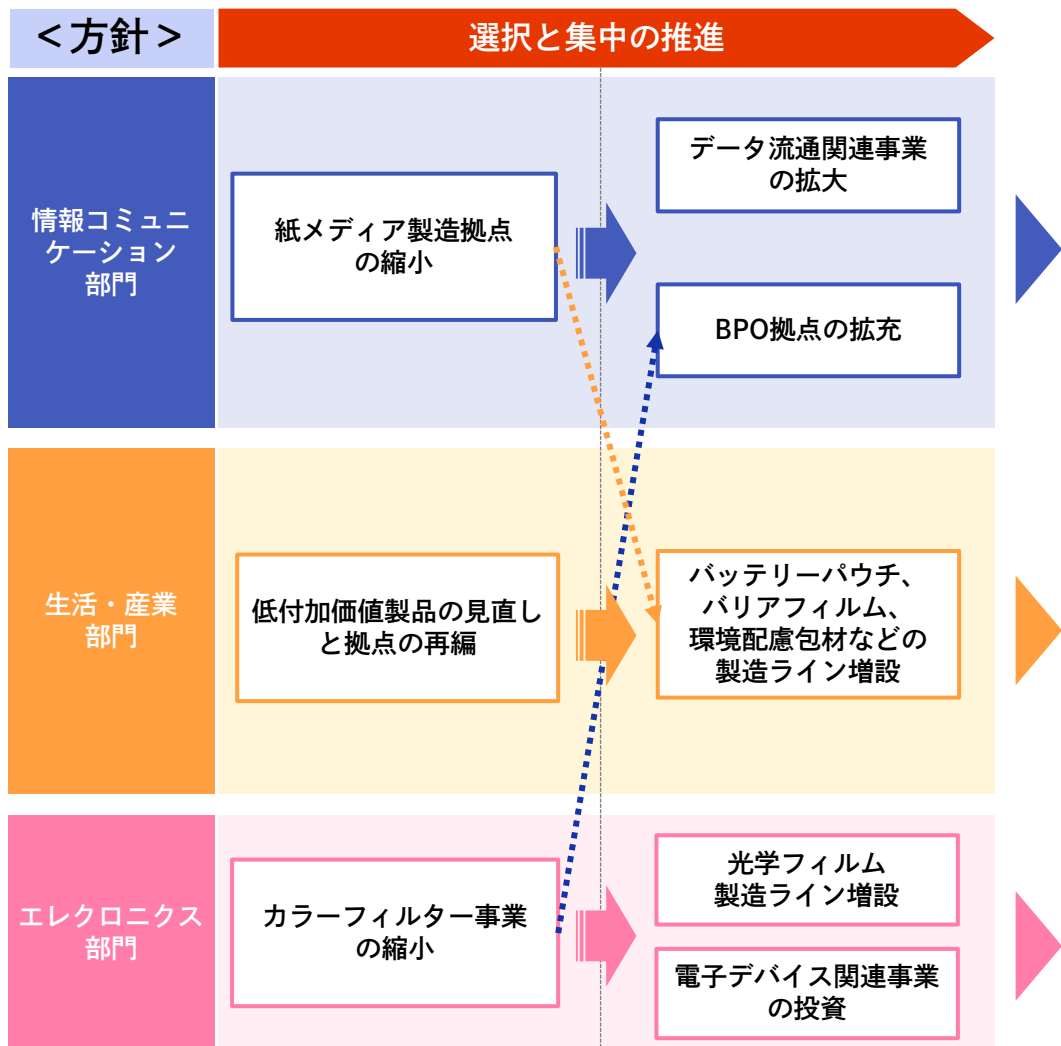
2025年の
量産開始を予定



あらゆる構造改革による価値の拡大

前回（5月）からの進捗

DNP



<具体的な取組み・予定>

紙メディア製造拠点の縮小

- ・ 出版印刷・製本について、赤羽工場を閉鎖し、白岡工場に集約（2021年6月）。
- ・ プリプレスの高崎サイトを閉鎖（2022年3月予定）。

低付加価値製品の見直しと拠点の再編

- ・ 関西地区は、京都工場での生産を終了し、田辺工場へ集約（2021年9月）。

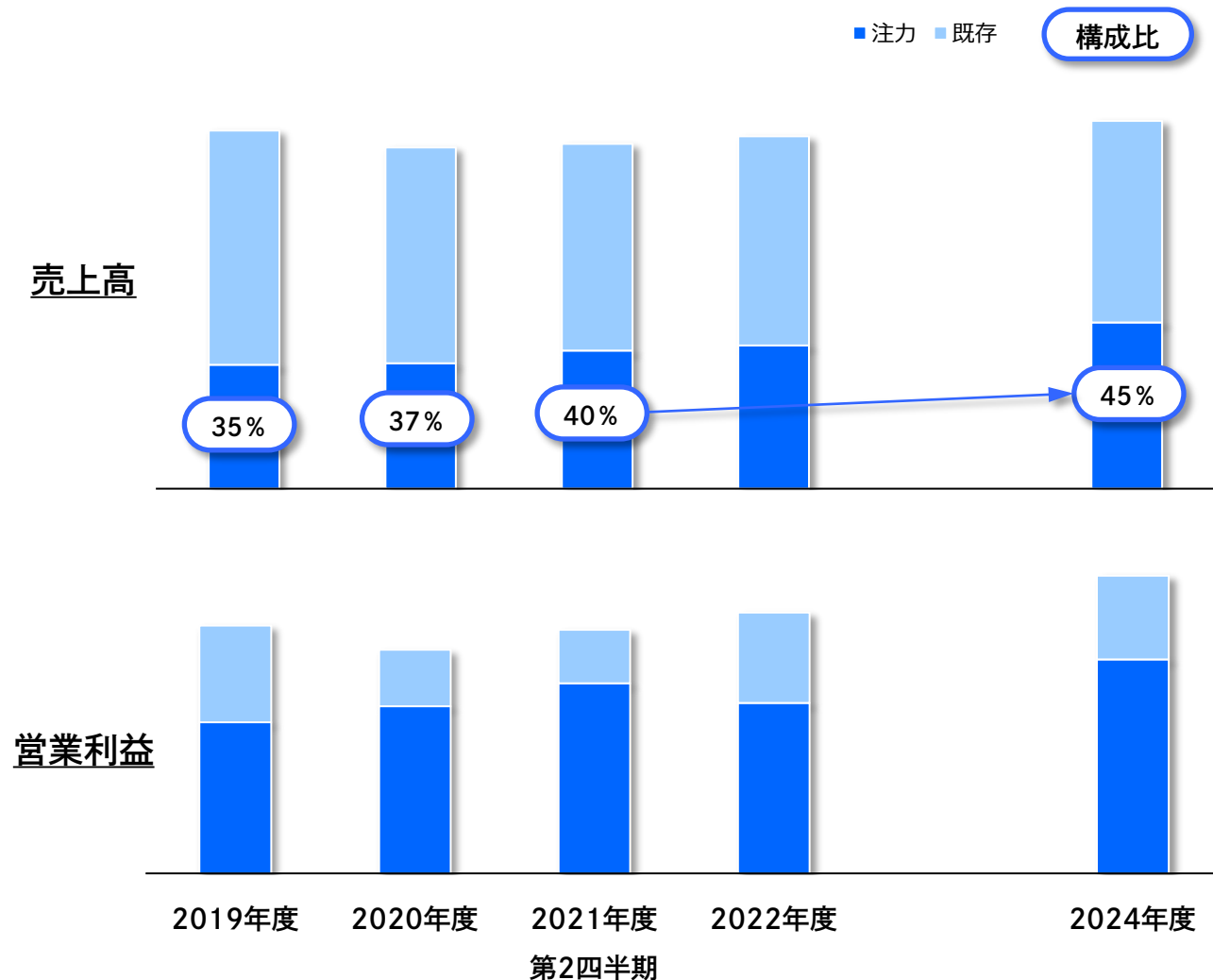
リチウムイオン電池用バッテリーパウチ製造ラインの増設

- ・ 2022年に鶴瀬工場内で製造ラインを増設予定。その後も、国内外での投資を検討中。

カラーフィルター事業の縮小

- ・ 姫路工場は、2021年12月に生産終了を予定。

経営目標 注力／既存事業 構成



主要課題

<既存事業>

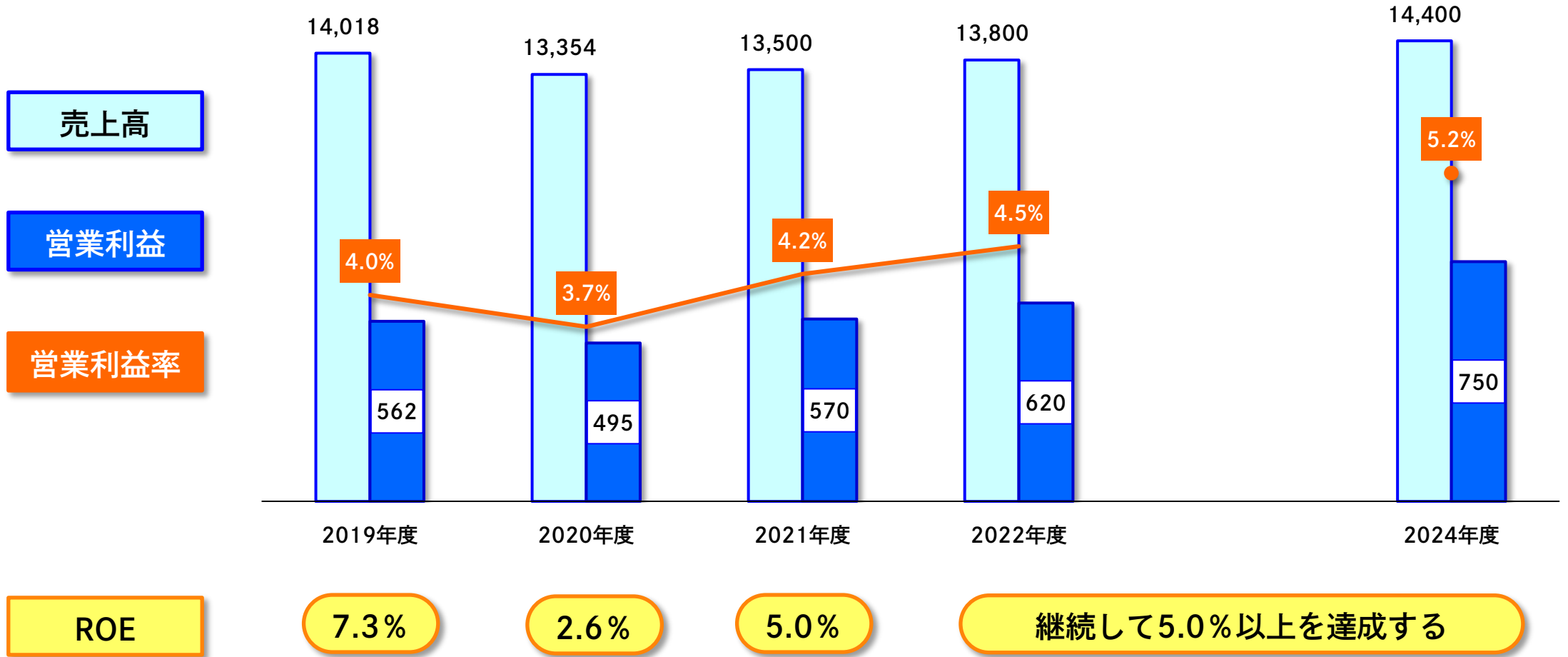
- ・売上減少が見込まれる情報コミュニケーション部門の紙メディア事業
- ・選択と集中による収益改善を推進している包装事業

<注力事業>

- ・中期計画における成長ドライバー
バッテリーパウチ（生活・産業部門）
- ・新事業投資は、投資採算性を確認し、集中的に投資

経営目標

(単位：億円) **DNP**



※2021年度以降、新収益認識基準を適用 (売上影響額：約▲300億円)

未来のあたりまえをつくる。

DNP

免責事項

本資料における業績予想及び中期的な経営目標等、将来予想に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、実際の業績は、様々な要因の変化により、これらの将来予想とは異なることがあることをご承知おきください。